柈

湖

文

集

蘭之意日是盆 色或言種蒔之術疏然也余故 文集卷第十 臨湘山中者盆蓺之齋之前 半里許嘉其名取以名齋 所遇者馬豈非吾是齋之吾意相感發吾乃高歌長 者 甚高爽齋前有花後有竹蒼 拘孰若轉我 書 3 籍 嘯·朝 槪·晦 弗 足樂者平 又以自號云 樹 知 環

之 有 奇 皋 喜逐 峰 ~ 丽 壤 之 攬 再 秀加 美·眾 通 納宏遠者惟 拜 而 品 川 丽 爲 以 之 而 祝 屋 流 堂 爲 之 舍 儔 而 欗 其 煙 火 爲 Z 陰 Ш 凑 冽 早 湘 堆 並 穣 丽 雞 無 ·可·暇 願·盆

向 家 爾。 之 閒 爲 析 之韻 加 重 余 有 圃 之以爲之 弗敢信 以當其門 地 白 上。於。 濟者! 者 樓 故 圃 0 卽 ٥ Ħ 隘 。未 不聽途鑿其 土數 最 略 高 尺

言北 ジタ室中! 他年 莊 以有南也吾家先世 姪諸孫輩 記 至於白 之前堂! 或敢忘諸謂此樓 顧今方 相 語 首 一公之 也今 居 親 別 從 屬馬 一不獲 或·有製 云爾 事分兄 云爾近時吾家子姓多出今六十之年乃移於此日 如志私以爲戒五舉其或得之將在 |何 爲戒而 不過 心亦不能 数里 別居自

宮長. 戚·說· 知· 取· 豕 道 姪 明 栅 財 塒 費 煊 故 廩 來 箾 馬 廥 屋 加 齾 非 也· 稄 辱· 於 孟子・ 用· 此 舍 易 列 Z 莊 爲 吾·家· 事 加 世 倍 屬 廚 處 孫 略 竈 嗚 者· 胸· ヹ 皆. 具 治 塼. 其 室 願・ 取· 田 讀 指· 中 周 相· 且 傍 老 尚 書 與 Ž 可·為· 爲·爲 袻 尙 爲 至 便。 僧 癖 厦 堂 外 讀 更葺 朝 闖 淡· 淡 時 蠹 閒 廢」 頗 墜 齋 都 也. 噫 偂 窗

W

哉 盃 副 F 吾 就 桃 甲子十 將 丽 樊 冇 夫 署 本 遲 栗 月月 務 瞿 於 是 其 事 H 瞿 宜 在 中 新 余 酮 子 樊 垣 乃 圃 m 1 亭 遲 之 翻 瓜 請 隱 圃 門 家 且 豆 西 多蓺 學 僮 之 則 一種豆 畦 善平此 稼 旣 樊 有 花 居 圃 圃 垣 矣 客 滿 余 大 然之 半 之 甚 有 筐 而 問者 爲 馬 廣 何 而 雖 圃 客 因 爲 吾妻方 也吾 有 圃 굸 卽 命

では、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmので

·花·利·者·治 而。之。 潔先 吾·將·盆·人·圃 為、愈、 者。 푬 父 家 懂, 君子 既 君子 歌 常 言 着 一 師 脫·矣·秦 舍手也。 A所貨製品所貨製 先 吾·爲 謂 滁 小·故· 將'文' 。生 穀進學而 亂·能·歎 圆而。退。 老。僑。 "於 者 能。里日馬、於、莊、爾、祈散。且將往鄉。之。今爲 食。 問: 於 長 圃 是 老 壞 在。ノ 一言措 戒。亭。分。一。日 偂 居°為

幸晴行不汗詩 溪行四十里明日行 急望大雲盆近 仙靈之所居也於 自此登矣三 郭建林喜山 中主体喜山水約同遊將行矣以風雨或以事 一種之所居也於是有游志蓋前此十七八年4 一類武神甚靈遠近走禱者眾常從之問云去中 一類而東望髣髴乎翼然有山起於雲中者大雪 一人者步而即路一人擔行李以從其日至於一个月之初十日建林自郡城來告余日新霜)明日 人 者 畏 過八 以 四十里至於白羊之田山益高水 期 百市 勸 有村落 酒 數 過 有路綠飛嶺以上居 息 Щ 田巳 T)復上 路線 如 . 此

其聲 響泉自 如松 伯 循 疲 看甚怖 山路綠 羅 甚 其下出 風之走萬 馬明是 氏 余差勇循 則 八家 飽 是 至 煙 日息酯 壑也是 峰 飯 火路 往 下 行深 矣 澗 益 Ż 是 行 石崖下聞泉淙淙 路漸 險狹 日計行 洞 遂 中 之崖 緣 局 水 19 峰 ---- 走 澗 十五 之 里無 松 漸 澗 絕 側大 磴 平亦有 澗 一曲尾 磴 里然路難 橪 下聲怒 坐聽 石 草 石 加 縮 級

之明 此矣其 示樂 茲 有 安 井名 是 可亭前 日 如笠 知 因 蓋 日進 也 可望 玆 過 H 一十里之 痼 一神之盛也余等亦醴 仍 聖泉道 新 山之 阴 恐欲 香者 恼 往時 是 友 日至蒿 人李皋 É 泉 壁亦 有若 羊 士之宮背峰 略 四 彭 坪囘 未 成走石溪來會 百許 門孝廉 是者 究今 氏白羊地 頓撼苦足肚 、氏寄 人道 H 始得之余所 耶 大雲指前 東 家 詩十有 加 而 而 書屋 今之 李氏 無 屬 列宮 祈 石 痛 相 臨 月之 多藏 宵宿 馬 크 遊 叉 至 凡六 顧 湘 鵬 明晨 不徒 明 得 削岩登 以嘻謂 丽 灣灣 處乃 書 大雲之 望會者 余 日 大雲巴 勞也) 所宿 與建 出 11 書 在 勝

則 泉 캆 則 微 地 間 何 適 而 家計粗足 m 削 建 林自 不訾問 始道光 其意 其 削 存

・相・爲 產 耳 為建 数息 及 里 日 其 薄 其廬 月 間過其 高 年 居 風· 地 於 味· 週 舍歲歲 如曩時・ 性· 數 是 四 君 兵火惟 + ・且吾今居 通 來余 年 少滞・ 以 年 七 後 也:陋• ____ 爲 特·基· 開 十有 今 室 此 水 亦會其身之所遇便自散家山館共晨夕言笑不倦 冠 家多故 以 年 所 卽 西 灑掃 自潔 料 点 会 往 共 喜與 浸蕩 謂 春 往寓城南呂仙之亭 僅 屑 余 牆壁穿 夏·堪吾 澳三十 存謂 旋 又 以大 遊嘗偕寓 過之以其 甚 宜之室 昔遊處 水 雖老矣貌 皆盡 漂 與吾 造余 没 城 其 南

弗諼言 雅 也 寬 貶 抑 樂 言其 當 謭 未 不 樂甚 盍 亦 足 而 言也 受之 可 亭記 爲 也 平 氽 請 肵 殼 未 能 而記之 隘 卽 樂 室 爾 O 也 詩 顧 以 題 於 與 考槃 吾 耳 居 H 者 寬 川 永

·亭·近·前 也:宜·望 唐張 相 見 其詩 至於 説 中 為為 岳 南 夜 樓 州 刺史 卽 돖 與 陽 也 賓 遊 肵 寺 移 僚 傳 無 逾. 7 遊 洞 風 前存而, 点多在南地 波卒 然之 樓及 踞 恐惟亭 嗈 阜 湖

能樓 陽樓塑其仙 宋時也後乃增大之云余 仙者無以爲 八其蹤 水為 致 所遇唐世士 加其層廣亦過舊亭 甚多皆妄 更兵亂亭燬矣道士李智亮募貲而復之智亮有 之 跡 記余惟 儏 屢 故 陽風土 他有 有言 陋 事在 又有城 無 大夫喜 記 與無 神 神 稱 仙 廊旁廓厯歲克成以余之夙於 自少時性樂放遠 純陽氏 餌金石多為藥誤 非問也秦漢之君以求仙院 之事茫哉孰 南 遇老树精 白鶴 頗 多蓋嘗有三醉之詩 之名 有呂仙亭亭之始 芝 獨 從 語 雅 則 而知之揚子雲 小 而 入郡多寓亭 此亭所為作 ·說載 著余 唐 觀 故 張 聍

願·仙 禹 風交 樓記 經 江自宋以來儒 頗 洞 能 難 之 庭之 無 可信 如往 山帝 是 泵 在九 自 之 而九 者 江 始 同 耶 江之 女居 余 說 論也余昔在亭見老 兩 開出 爲 耳後竟以老 耶余雖· 之是 年甲子歲夏五 為洞庭審矣惟經 九者未可定據蓋 洞 則 庭 與之皆醉 常 必 後皆以爲 其閒必 游 以 不喜人 飘 於 風 吾 江 而其徒 暴 莫 張 將有 淵 月 説 加 沅 按

陵以合江之經流故 澧 過 實 迫 九 貿 西 江至 及自 因此為 枝 分江 于 江 東 公 安 陵 益 經交流 石也 君 故: 紀其績 Ü 當 容 水: 哥 而 《归東別為沱又東京 州 得· 消 江·道 冶 稱 之 氽 西 頗 疑 南 囘 地 蒋 再

之故 終之以古仁人之用心其言大矣夫先天下之憂而憂 聊 天下之樂而樂文正平生之志也以子京誦宜將有不 滕子京記岳陽樓具言登臨景物接於人而生悲喜者而 四面臨之其浩 為 浪 樓於此題日九江宜也昔宋范文正公為 湖 Ш 世推其豪近 間 地自有以發之然則至平君以以文正之言與動其懷念雖 者 何也余從弟退菴平生讀書 因為言之而至今來遊岳 渺雄 壯之觀以視郡治岳陽更為 卽 叉十年出 入戏旅 元年五 山。由 不 預試 月 而登茲 意 後

考之唐世詩交所稱 荒落余所見寺廟數所皆頹字僅存頃年又燈於兵火 君山古名洞庭之山洞庭本山名也後乃以名湖余曹 洞庭云者登果有仙靈洞府之居在其中耶然吳中震 山亦名洞庭古又傳有巴陵地道自此山有穴潛通 則獲芝一本大如飯盂色深紫 年春正月余弟退菴始以鹿角敦善救生之局分置 稱山有三十六亭其為遊觀之盛如此蓋自近代 侵暴竹樹 尤奇怪而 乃構堂樓於崇勝寺之後以奉 至問班竹之叢無有也今 山經言此山帝之二女居之其爲異固久矣 洞庭隱居者按其地皆當在君 可開合為稱雅攝龜者以告余余乃 湘君湘夫人 而 光莖削 天子肇元同治 以 堅其日 命

并發於今之一 日其又謂異與抑以斯二物之 屋 皆有託 芝館 松子 殉 遊 而 而 而芝 心平世故之心亭於得如 Ž 被豈惑乎 國 餌 矣·以 外 死 耐 死也 與龜 (A) 於原 (A) 於死者數矣 (A) 於原 以 、慈思 生 之 以·異 之外也漢之 他 所 示驗於人者與余請 死 山 。切 之故 日息亭蓋古之為 所不常有而 而 謝 未遑 哉 亦 習候 常以 仙之 以 多道 所遇 功 世變發憤 其 名 7.功名之 神仙 題今 蓋 世 而家所

也 居亦 女時提 歌未嘗 余新居 。絕。 亦為 云昔謝安石未出時居東山後嘗樂遊 遨·不 日東 別墅記 隄 耳余 里而 屋 日北莊因舊居爲名 神往 於舊莊前 山草堂余嘗問 而擀馬 (陝今縣: 時時 何哉今芝追 近 也余為 以水患避來群庭之 7/ 11 1 兒 釣 子讀 馬 日東山 間老人群庭來與鄰 H 於吾塾者歸 早飯後行) | 大 人其堂 別墅蓋 M 郭 猶存讀李夢 祥 遊 庭者余之姓 m 加 之其號東・ 在者向當跨鶴 至其家馬吾姓 飯馬吾與 而劉華容之 陽送公之 小相望 女

危崖 曾 數 有 月望夜始得 湖·夜泛 金碧偕者 樹 是事否而 相 日此 上者未 記 影獨 们 余 平哉 樟 西 之東 僧* 平 無慮 爲 次 有若周 者 第 生 **廼爲之詩詩** 匪 過 風子之名 爲 發掉自 厥考之所搆兮日本生之 勝期 君山遊者之上 也 然月 皆 •抱 則 赤壁之遊 為熊兮當有麒 以著之詩歌 向 舟 南 香 崖 鑓 月 知 溉

音泉 ∘輪⋅不∘城∘惚∘數 今差 ·見 ·坡 白 生。可。 舟 斜 П 耶 鯕 響 問。當 背 泊 Ш ļ. 者 在 之 後 數 Ŋ 水 前 無 此 句 爾 無居人有柳於坳者數一日晚自沙觜見後如人北人後湖旋而東北人北人後湖旋而東北人北人後湖旋而東北 盆 也 **叉西** 無 相與論 顧語 平 人聲轉 坡孫汝 *余 於 南 "舟 出 天·行沙觜 觀 數 穿 水 人遊 柳 · 長 · 鐙 · 靈 · 有 · 狀 · 火 · 洞 · 神 中 然• 則 且·風 間 來 東 平: 上·岳·君·金 過 也雲。車。乃。州。恍。堂 觀

居 Ш 假 記 與 岸 超 僧 室 佛· 别 偕寬 濉 産 超 、守葷 闑 埽 之 黎 頗 戒 潔 中 氽 供 四 裁 得 而 以其 室 惜 少飲 有 定者 老 其 常 僧 無 噉 余 花 滿 有也不能奇重之余 棃 知 歸 而 以 其 數 片復 施 遠 處 娱 明 名其室日定 0 主僧 通 而 B 曉 往 記 告 其 得 H

果佛之說哉蓋辨物名者曰 長沙城中地 半舫燕記 完守連數歲賦近不敢犯余於去丙辰歲冬遂來假寓 者葉尤狹 而香同者皆蘭之屬也可無辨僧又日此蘭中有四時花 古所謂蘭者而今之云蘭 因來此寺云成豐六年三月旣望 以寺名 而長者是其種余又異之淨居北去余家百 ~ 旅 日寺洞平江之西境余以兵警常避家洞中 鄰縣百 巡撫察院接連頁舉院 7/4-1 丘屋錯 里閒又數數警徒而長沙自壬 又有 「蘭有山澤草木之不同今 不異余家巴陵遭寇焚其廬 花數花之異乃其形類 = 里

險 舫· 順 月 恬 就 波舟行之 在夷 意 陵 同• 有·其 迦 以 適 畫 事 號 诣 其 舫密記之文其 们 面 形 以寓 余 題之 嬉 其週也而 爲宴 日計 言 又言 江 m 湖

既望 堂並 豹 則其 所感於古名賢之遺 之思 忠 與余居相遜 地 秱 何。 洞 調 丽 然斯。 記 馬 也余居 於 知命矣余以是爲半舫齊記成豊丁己春二 桐廟寫 祠 新建 言也 **9**/. ^: 長 雖 跡 日偕 甚 沙北城楊子芋菴湯 以 凡有行皆當然獨舟也 ¢ 至若忠 淝 亭 之事 湖 玩春霽行遊 、或嘗左右其事 臺館字之細未嘗 南提督蒙古忠武公塔香 身捍大 平塘圃之地逐 婚職 子子惠高子 那故知舟者。 者 患 其 不以與 以 死 見

安 鄕 戦武 祠 微 塔公江公羅公自左 而塔公甲寅湘潭之捷賊以不復南南軍以大振江 昌以死皆此前數年中 有 忠節公澤南江公殉廬 皆起鄉 撫寶慶江忠烈公忠 塘 軍 駠 栅 賊著聲積天下故並 团 而右前 州塔 源二 事 爲大廳 一品筍浙江甯紹台道 朝廷念其功 公歿於九江軍中 **番三公之始末皆** 祀於此祠並 無宏壯 天下痛 賜諡 地 羅 爲 湘

稍落矣迺悵 黄隨其所遇遠近大小多寡 有述馬何以為人子乎迴集族之長老告之纔出穀五 其族人之願中歲兄弟三人分產以居 **丁石又二歲迺三百矣盆之數如前於是及乎四百乃以** 必不以家貧不足爲解也 族之鳏寡與其一 不沒於利者而後能利於人也士 義穀 記 司其貸收歲儲其贏 久余乃記之 然念日吾有所嗣父母 廟食隆 而皆未知其身之所止 下貧者婚喪之不舉者稍資之又數歲 重 劉甥平湘自其少時 稱吾力之 石 肤 M 有志 則百石矣益之五 吾受其成貲不 平湘不善為謀 所至而皆有 間 間 訓 無待

者平其得為 捷之 加 劉 愐 始自其族 除 下慕 資今且干有餘 乃卒爲之古之君 爲之故有常 費者猶 官宰一邑為其民興利預 稍 而後以及人族且 願 之。 則 慮其家之不 白 矣余義其事欲 縣 平有義倉有社倉 子之 而奉 飢 弗逮 赡 利於天 同 生童 母甚孝視食飲 冶 則是 都 其大 何望 為文 年冬十 穀 下也必先其近 赴 亦若 不 冀 馬
ル
其
遠 而 、垂諸 月 。道 贈 記

浩然樓記 里柈湖逸叟欣然登斯就爲之名以張卓爾君子曰岳 菴作堂敦善於茲集事四十許年登覽之娛未暇以爲劉 君漢秋拾家輔義聯茲 必周 也歸然此邦舊矣希文子京之志事旦暮週之雖然 乎鹿角之頗而盡洞庭之觀者浩然樓也初余從弟退外相 飲 葷多識治急方時以語人善呪水以治骨節傷損至不 請者必往與平處無爭人乞者至門速與飯不以稽 ··康於取乎蓋君子之於物也無所累而已 里有公務不辭任其勞者喪本生母廬墓下三年不 則亦莫非浩然者而况乎其地之有也 三妹適 一茶其爲人也如 人皆家貧為息錢時給之兄喪盡哀族 渺瀰崇而有之度地半弓取勢干 此因記義穀事附識之 1. 茹

非等間 秋。復日 陰 周官 尉 職 湖 書官各言其職掌自六官長貳以及百有司之 思居記 地 有言謙 局舟浩然上下岛。 鹿 ~号精為 《其舊 **号泊** 風。 《伯怒湘》 斯駕 馬 君來 洞 石來兮亦何· 好武漢兮暮 謝 庭波 漢 미 生有命 潭 慈。 引客置 爲 無

難 差 屬: 愼 之 故 雖 思 各 位 而 自 重: 殊 無 財 越 卿 於 故 亦 於 周 中 5 甫 弗 適 有 꺒 尉 甫亦 獄 典 禮 獄 肵 官 夫以及 於 與盜 云 此 今之設 詂 也官各勤其職 间 甫 等之士貴 成 戜 盛 官 謝 品 也 氽 後 修 則 胹 遊 垂 奺 伯 勝 預 之

聞 之 旬 巫 告 而 閘 壅 來 此 水 Щ 時 調 暴 而 尚 買 佘 邻 、秋者 容 沒 儈 重 成 同治 紃 田 市 那 而善謀 博 猾 退 豵 令 四 委 年 虚 錢 緍 須 取 錢 更 君 陰 至

意蓝 誤曾公之 文 称美 所處 鄉劉蓉孟 天下季霞其親弟有 則 国 南 四 以孟容之 吾弟 門 昌 氽 争欲 令補 ģ 後 西斯者 に隠去 容手授 劉 肵 賢 公亭記 記之吾將 也 **圻者李君** 自知 方提 同治 死 蒲 傳 氽 圻西 以 爲仙今人 七年夏五月 封土其戰 曾 阿外 於 司 其鄉 習 事實具銘 馬 知孟容 處而亭其 肵 為 弟 季霞銘 曾公親 吉弟 賊 摮

上、之。亭、之。追、若、以、 康 章 帥 而 其 道 容 或。 從 於 方 曾 孟 後 亚 窮 容 則 公 人·使·忠 而·宜 我 季 IR 軍 霞 亭・張 何 侍 奇 父其 而 . 卻 事・ 何 爲。處。關一子。 既·行 取 他 死 戦 能 攻 賊 也 與 间回 往 問

知 李霞昇還營中其 克嗣立至童佐厲公誅强 氏自晉胥臣日季名春秋其後有甲父當趙盾時故 八嗣堂記 死時年二十有五 除巴陵獨 間達者趙宋時 世師竟其功於天下 世嗟夫季霞之死可 霞 其 多胥氏 八循循子弟之行遇人渾渾愔愔然 死。進不 偃 在 止卒大破賊火其柵拔蒲 居 戚 湖 **卿以亡其宗葢晉之公族也** 也季霞名蕃以死事得追 豐 南 爲大官 <u>H</u>. 而又其才可惜不神靜而識明其才 年十二月二十 與歐陽公為

耳 郡城 甚 明 嗣 胥 特 궲 其文於 1皆近胥余先 猶有 與自 夫秀オニ 能 、部基立 其 余 何胥也 孫 並高・ 惟 時 年 其 - 矣余 也 大母胥高 里 吾里之 之 明世· 亦言麻 其 多名 世 烟 塘胥 人也 多 與

後子壽編修遷宅 以君子之心爲儒者之學則可以升於此堂入於此室矣 初黃氏自體陵遷家鎭遠考觀察府君始成塾以敎其子 洞故也後有賢者必 藏所 而告之日名非訓也得無非其眞平乃更以眞之一字於 孫爲言曰立志爲名儒云者書而懸諸楹及寢疾顧諸孫 **湘鄉黃氏訓眞塾記 于弟始入之塾卽語之以干禄之事子弟才者知之手其** 之平父兄且喜之日女能如是何爲而不可乎儒之名草 揮其義 此可以取諸生舉人成進士而至大官矣吾何以 古人之本志也更之宜哉世之父兄孰不以名望其 入於小人矣今之謂古名儒云者從後人名之 日論語孔子謂子夏日女爲君子儒無 湘鄉復其塾扁題之日訓眞敏樹爲之 /著書洞中則代書春秋矣 爲小人

與并後茶廢至 倍之不足拘 杀者有淄湖 石天下充上貢馬故客之至者欲啜茶君山滋甚昔之錄 **示旣考湘靈之宮因念僧人延客當有茶坐而茶產君** 疾沒世而名不稱亦欲其不虚是名而已子夏之學 儒者稱其篤實黃氏之子孫其念之哉同治八年八 而近 時 之白 僧病茶最甚貢斤才十八 僧而撻之監造之官親 日君子求諸己小人求諸人 鶴部葉 國朝君 得有眞儒哉孔門之 有白毫茸茸然故以名 名雍正 閒始入貢真館 而 師爺者又以 他語多類 教其辨君 官吏之索數 而利之上 山與寺

恬 者 樂而無渴 古驛道 園長沙朱氏之山莊 固遊記 開遊與且停客驚 江之勝名於 一若遂 旁間嶺 邸有心遠樓 乳 美將慮 死不得·乳復出 上會城下 林館 饋獻 是邦矣去歲初夏友 囘 復 而 其 之美春秋花 肵 天下後世之嗜茶者 數轉 問不意 絶 茶 李申夫方伯 也地名 須 主人宇恬等 也 祖 以實價買之 為言於守土 時里 坡去會城東北六十 活圆 一則柴 所題登之 人馮君樹堂介余 舲昆仲豪 親友爲會其閒 者之 關 矮屋前見 在 可盡嶽 俊喜賓 此也朱

皆為書之明日樹堂以前 且息遂以逮暮其 之以祝主 居處之事爲之 圃 幕花光 日黃中竹之坡 門樹堂先 曹鏡初 園也時 日納 人皆歡醉宿 照點 往 池渠而曲 在 遊 月 山 別杜 天晴 池中 坐 園之館 少頃主 刊也晚飲席問 亭 碧 則 園 風 負就 日富 柔雜花香 天舊 者 可以極意 中明日弱昨所至及所 想 乃偕 **悉無非花樹中者** 人導客行循 宛 春樓 景甚富軒 沚 郭 路 閒客皆揖花 筠 堂外出 屋 日泌翠臺 春 公 如舟者 . 郊 步 梅 題者筠公樗 丽 叟能 廊 逭 日歸 其 亭 日線清 山間 皞 則 而 一館前 舫 杯

哉余頃年遊吳越 袁中郎記西洞庭山略言天下山之與水 厚其人幸有氣力自完其疆叉能出為 乃今長沙都 以儉持之庶幾詩 **桐庭遇矣而荒寂絕** 山示遊客 優伶歌舞之習樹堂之倡其里會 風矣恬園主 為荒墟未嘗 也 邑雄 而無以公之人人宇恬 庭為海內第 富壯 間見兵殘尤甚求 不欺息疑其有以然而吾湖南習俗 人雖稱豪願喜為 人蟋蟀之 人煙竹樹空 親其人 故其說云爾余 義 新鶩華靡駸駸乎前 疏石枯 昆弟之志意誠豪 所聞的時園林有 山中之樂無金玉 國家平時之 一種中肌 謂洞庭太 H 之

殆非尋常 質則又 道 洞 目楚騒 資 塞諸 山 山穴 拔·落·湖· 棲·未·水· 們 過 有 究 通 之山帝之二 吳 矣. 之 中獨 包山 女 此 洞 居 兩 庭為 地之山 而 Щ 同 而(洞巴 移 庭 名

來東坡 公墓 余從 道記 先生有 形色窮古今不 也退菴居此 園 孫 機主 弟 讀 可悉 (糖) 濤 退港 爲· 77 則茲 人也 諸 通 'nΙ Ш 數 同 葢 野士 而·退前·菴 治 易其 族 江 風 U 月本無常主 有當 臨 杒 之遊者 風 冬喪弟三子居家 ·有 其 有 元 月 事 面 所 猫 (會合) 知 趴 其能 閒者便是 兵强 不自忍其 古今荒 之 複 園

....

公與易爲姻家二 人語文姓長 明末之亂地多移占 Ħ 公夫婦與易之人共 孫十 名 有九傳矣而公之墓所譜稱與妣楊氏合葬中觜 雙沖口 知者今若族之葬亦夥 此莫得 一公明初自豫章遷於茲土葢至今幾五百 老 日岩 得 在吾家稍南 一世妣 、兆於 젪 指馬康 山間 山為 基 則 固在若 累累皆文 此其後易 易氏也或遷時與易姓偕來故 憾 有 煕 今 四十 里其旁文姓易姓居之蓋 兩家合約字據其時 山吾世傳甚 年春從 無知者 不繁 氏葬我吳氏 年公之十 當先君 而文族眾又 弟 而後之 邁 子孫 試 子世修 一世典 园

回 地 釋 遂 至公之 便 更立 郊 共 成· 肵 新 ,起 以謂 約 豖 易 處姓 能 亦 莫 附 能 馬 定 刻 所 指 期 發. 集 也 按 功 矣 諸云辛 而 點畫 邁 姓 我 也 哭 聞 而 氏 適

樹槐 記 侗 一耶杭 寄訊 虚 平 西之詩 吾训 祖 而喜之備書以遺後之人 之 友 塋 邁 於 《人茲豈以告記意懼其遊亂》 裝市 雑 Ž 爲 丽 解 以 遂 能 王 以 獲表始祖 知 吧陵 戌 披· 勤力講 顧・ 胙 看 死未嘗不思念之而 乙丑五 地 我 耶浙 難 道 公之墓道實吾宗之仁孝也 行 通 以 冰噫是. 月 吳言之 杭去吾此遠且二 切實事近年率族 死而文章散落未傳 王王 一特寄 秋 何, -夢也那· 一夢・抽・神・ 一学・相・神・ 一学・見・其 75 以位 **预岩其果易** 余錄存 西之 也思 徧

逃弄猴 **日我** 目 子阮生言其 者哭 事 酯於 自 以活我汝走 而追之 是盆 餘 里有 地 錢 數質 亦 愛 猴 猴 弄猴者 埋不我 疾 聞 矣 其 死 人莫 加 呼 年 下 活 弄 鎖 止 老 弄之又 蹲他 、猴者 不如遂 知 無 侵是 E 有 道 則 鈔, 存余 其 一女 遗 掩 書殆 手者 早嫁 躍 猴 稍積 入水 出 走 族 向 己 語。配。

果 雕。 驅之不 善於 棺。 者 迷· 小禽 可 動眾 說 起 家言諸物質 殉吳 向 飲 汝 異 育 土靈 子 之 埋 將•爲•主•禽 創謂 聞 其·默 類性 位 而 而 型 以 義 名 者 不 上 宜 其 不 能 善 出 五 着 不 。 前 猴 忠,近 作 汝豈 .禮 葢 也·沉·烈·者 拜猴 猴 也 如 言 此 聖 而 時 一賢言 起主人 其。何 有 然善

多書 巴 高 (身乎且吾) 人所書非若題: 雖然 若弗聞 軍 吾間之 先生非 敏樹 館 亂 ·僧 也·亟 有· 旣 隐 ·課 造焉· 必·也 逢 ·何 著

鄙 非 之。 而死 官 同 駿。 常 造。 於 :材 疑生·非· 而。人 獨。賢 赫 於 論 是何。烈。 然 儒 牛。 厥・ 舶 與。 能 也 楚 實、 ÌΙ 子自。聞。 遲,僕 平·則· 爲。有 窮 何: 殞 ·與于。 视·安 而僕 詩 2 他 鷹·敢·再日 鈍 廬 而·牧 拜舍用·兒 肢·向 拙 人 州 之·目 意轉 能 羅寇 乖 之 疾·解· 丽 之之。 求 湛, 葢 而 ·態膠·賢而·抑 道 ・謝 子 秱 昔悲。 蹶 欲·又·日 者 鵲·不·韙雄 可·天 欲 之·可·矣所 武 其。而 後 撃·無·客 之 事·言·之 嗤 趣。盆 ·壯 者 然 間 先·其 而·醜 将·於 且 之· ·壤·耶

防寫憂寓物之歌于强能聽 哉 勵志賦 **馬遭先君見棄懷痛窮天思爲顯揚計讀書用力頗勤** 年及冠有志於古之作者患才不敏力不强然勉 岨清曠之區率子孫耕 試有司不利意有疑焉道光戊子之歲游學嶽麓書 并序 百軍書取速資源已不遇則退 輕·果·風 不食兮不飢哺形丹飄其巢分鳥何 食分 微歌既卒客起 稼 其間 以全其生而究其年 必有能恥之今將求 之矣豈非其宜哉若 解 而

眾 凝思 差読遇 雜 進 自誤惟先 若 分夜夢寐 以致疑 以獲禽分吾 悟望先哲 其如 分 應舉之 余 遵 晒 永逝 掉 而景行分笑邯 知薄 頭 世。 悅兮寂 **号慘怛摧** 而弗顧 劣終少成母意纏綿 默 首 何 師 ば 兮綴 逦 處 紛 鄲之學步畫 平 自 以增傷人 瑰 日之改途兮匪 往歲之奮志分 中腸背 **今億前** 諸 麗以侈態 生之 不合有司 科舉從 獨 焉 何 <u>...</u> 可 故 所

THE RESERVE AND ADDRESS OF THE PARTY OF THE

償。 無窮分待何 羅懶農 置座右以箴 , 輕知我者將 謀合 事作 肉之 余尤相 敏樹前母羅 親 人獨 一既生 哀 夜以無見 不肯竟故號 愛善 親 飵 将來就今年 中遊紅生 彼 羅氏居 銘 太孺 功業 添。 初 兄 今·恶 力 雖 宜。方 同 郇 悔 不奔走而逢迎作斯思名 地名 地生我之深思公理面 復初今 政余之 農其昆弟 宛之 古。農 農 朝 建分或 。老. 暮 八悲哀之、人人由余 就 相 四章昔英雄時未遇兮感 衣 往 数 無益兮誰 食 之深思兮當 來 年而 子 也 晚 而 心所為 乃 懶農年大 余外家徐 可成 自暇 云得失之 賦以勵志兮 捌 學 四點指干 自待 學業本 氏 於 無

咸豐壬子歲旅 夢二友 詩篇章頗富 爲短詩數章前致於兄 得 子之文能 獨 送兄之葬於 有三之年壽不爲 與余 親 匪姻 寓 致魂· 請余代 請 出 都 鄰 蒼、秋。 之 之 他 墓之閒長號拜辭以盡余哀 相 也嗚呼今余不得哭兄之喪 也。之 /靈前: 少孤。 保也號 和 之祭辭者兄必求而讀 間 邵 才氣流逸意與高朗余喜 而於 於 郠 中位 Ż 肚勞疾又困其老 葬也復申之此辭 兄 也還。 亟從 日懶農 西索讀其詩 。顧。之 余心之 所

挾位 位 相願 大喜 知余 錄之盈五十首初余道 冬賊遂 郎滌生魁然盛有 西閩 孤 犯湖南 好治 與往來甚密 乃甚親窺其胸 四 客亂 來共談歸 余文許之常 古文有前 離之思至不 括 破武昌東 洲 過羹飲 鼠余家 時梅 文語 聞 中坦蕩愛 明歸氏文選錄之本來借去數 光甲辰至都有瑞安項君 之 位西意 允 亦未甚合及王子余復至位 人避徙 可聊位 夜分 生伯言已歸江南 家書絕明年癸丑歲旦余在 不相 山中而余畱 西嘗爲長篇贈余 而然也遇羹位西鄉人仍以車送余歸葢歲朝 人之人也是年粤西贼見輒掉頭日未好而意 西以家 下 車迎 而 余皆與相 余至其字 都下未歸 而吾鄉曾

至曾 先扶 其詩 工奉 而其秋 公公 避 使 江 取 c 位 西 西 福 旣 軍 以贼 聲跡 母 中 洞 未 西。亡和至 西 八酒餞 鉢 余未詳 渡 也 久去 。哉 寸: 河 許 同 其行 甚 官 \mathcal{H} 治 初 被累斥 親 氣閣。 悉事 改元 以。誠·新·閣之 部 杭 處 十首者存 而畏之其春二月位 州 圓 爲意甚奇 ____ 官亦 月余人試 實不能爲 妙變動不 軍機章 再 歸 敝箧中 陷 浙 之傳 矣 禮 位 可 朋 京 可 後聞 岸 西 捉 刑 陷 部 出 其 則 西 南 西 ø

二·我·舍 妃·騎·人 之·湘·死 以迷向兮旋 作夢二友 出於吳地 並之位 愛 部 語 山 辭一篇 官 西 山縹鄉之高峯人民質 仙。濃遭 竹。之難 忽忧 其 爐 梁叔名克家元和舉人從金陵軍奏官中名懿辰舉人考取中書旋取充軍機久不 識 聞 而發蒙珠芒进而貝彩兮豈淵靈之惚以夢遊兮入階穴之旁通初黯點 超叫山頂兮虞舜不逢斑斑其辭日 即用位 西 贈余詩宮言荒唐之義以 迅空義和條勞其牖戶 雞 犬無所見今覩 旁通初黯默 點淚今弔

星兮燦奎文 下數 呼自粵 豊陰陽之 土之氛 中长馬、火之夜 攬扶桑 乖别 亂 謂得 編解 医馬回思不解兮招魂。逐兮驰余鬱糾之凡鬼心夜虚鳥鳴呼而相知 我桑以旁拂兮光亙瓦 切 今日 天 团習 躬意 能平城 此境 何 竊疑夫古今才能之人 色 朝 顔 所 之 非 廷患兵不足 非 傲 · 互互以熊熊初余與有· 同昂青霄以得意兮如 則 忽不親 兵與餉 今忘 猶 餉不足 初余典 P 時昔之 神 無 振 發 憂

余 能爲以死 與制府意未合云於時天下之 **有爲公意獨** 悲馬公往 東下 多未能 先皇帝 聞 官軍 悉 則 旋、 使 以為 末年公被 以名舉 馳 知 將 赴 人之 明年正月軍潰公遂 其 而 咎哉 難 襄 聚兵田 以成豐三年五月抵武昌族 人與其行事若貴陽唐公子方之 人為 故家居數年 朝命起 知 今自兵事數年一時 亦 或顛倒錯 弗 鎭 **週最隆未久郎引疾以去葢** 迎剿之麻城殲 縣令湖北 許 以禦公策欲掎之 公湖 베 占 魆 將 以死公之 北 柊 以才能 之 知公之賢望其大 亂使之 與督 在 以不出及寇 北 殉難 路 撫 發聞作 共辦 湖 初抵武 口 디디 軍 督 陷 陟 死 務 武 用 衡 所

天而。怪。綸。數。於。節。止、公。職 漬公 下非,也。學·十.廬。公。陸。而、未一盡。此、臣。賴、州。及。路、侍、 凱 時 往 無·余·青·所·吳·江·未·郎·期 以夢獲 變人、质。磨。請。公、公、能。智。賊 徒之。以。實、給。與。俟、制。公、 當。戰 懫 以思·歎·交·皆·公·軍·勝·方·是·賊軍也·夫·劾·爲·分·集·乃·募·時·江 復起卒 多原有、促、撫、道、同、多、勇、 上 祖 公人、迫、臣、出、舠、造、長、朝、復 有、促、撫、道、同、多、勇、 又 捷之而。之、靳、擊、賊、儆、沙、廷、黄不始用。則、不、黃、俄、船、以、所。州 医於 葢 明 方之。公。與、州。而、盛、贼。倚。以被未、之。余、而。江。水。盡。辦。便任竟。不、聞。敗。公。軍。據。敗、宜 陳 人 忠愍 뿔 公邦彦之 非 其命也 死·足·崇

旗。兮兮。公。師波。余又。不。與 喪 伯言 古文詞之學 先 生誌 於 辭 今日或 日當有所授受葢近代 憂事 。今。舟·投血 固**嘗**以文字辱公知又在 然哉公之子舉人炯旣獲 揚 勿心 意 流 世 推。我難。 為分才竭人實不 而。 狙·舊 以。 孰。 死。今那 大昔之夢者。 數 也。騁 誰。泉 歸 尤·滸

言古 郎之 山 告余日 姚 歸 之識 後 大僕 數 氏 余爨 師 千篇 梅 復 也余自是盆 我 都 知 也 城 京 宗 諭 以前 聞 則 加 朝桐 梅 余閒 姚郎 生語未嘗不及 師 派 先生得 一於文 先生 求之古書自道光甲辰又九年咸 古 見時 Ž 城 成 目 中 自 卒矣余於 學 名 出 梅 而 咖 已去 官 得於 顣。 傅 先 治 **耶於諸家爲得文體之正** 奚近。 生語獨 侍 余 歸 古 梅 余余窮老於世今且 阆 時。 者 寓 金 \bigwedge 郥 之學皆 陵 而 有 中 派。時。 尋聲相 丽 以發余意又讀 趨 伯 桐城 言 孫侍讀 粤寇之 面 义 逐 稱 者 亂 故

逢·有 何 天·鳴· 之·鳴· 楼臺哀辭 過長沙邸下未嘗樓臺之歿於京邸 補。但 絕 取 肵 自 乃 而·趣 生亦 其 少年 得 歸。寄 鄉舉 可 人莫 不悲 也以庚戌 逢、 猶 世。 明 自 冀 元。 及 一 遺。 死 類。窮 之。進 不意 繧 臺 亂。士 也摆量 四月今年王子余來 爲 其。章 縣 臺 志。之 爲 令 肰 Ż 俊 亦 更 貌 求 厚 自 オ 爲 氣皆 達 也。爲。立 負 京 師

兮眾合以營惟鄉人之仕者兮多君與之平生終歸君 **才貌母胡不究乎公卿絕命族邸母無人哭聲棺飲無資** 疑夢寐 銘以遺其孤 樓臺之梗概云其辭 以故意遇之其殁 一海來萃兮求聞於京客窮而死兮萬干以贏嗟若君之 生平所與交遊 兮翳惟 之來告分心忧 死 世之訾詬亦不能 顚 倒所 君之必速飛 而不果故作為哀辭以卒余交友之義且 M 無成豈骨 一才名我時在於瀏陽母接赴 也余在瀏陽既為詩以哭之又欲 始皆與盡歡後多稍 意盡力於 無恨獨其意氣豪俊 明思 疏 避以去 遊處兮自 使 而魂驚 獨 余 爲 猶

伯宜哀幹 輕我來 局哉君已死其度有知今聊此辭以當銘 子嗣 呼哀已伯宜名萱以諸生保舉官至候 母者羅伯宜也初 人

人

名

若

樹

花

而

鳥

鳴

雖

吐

奇

以 軍 同輩 佐余又怪其絕意場屋中 意其當 官怪之時已從曾公江 京 予磨又樂已其辭曰 師母館舍行 一輟又二年己巳則聞 為翰林名貴人 即騰起爲大官久之 皆頗有才 經悲君之死此分視宿草而 伯宜能文章余識之最早以其 也則 伯宜殉難於貴 爲 、黨世今固豪 事與見之長 世惜而能致光 有聞 ġþ 綇 猶 歸 沙

以。此。鶴 血 沈·鄉·呼 而展彈世莫知子瞻顧盤桓郭焚 鄉耶君之材器大小咸治胡爲乎 鄉耶君之材器大小咸治胡爲乎 。 一 丽 死 結遺 雲湖 餘 文今。歸。游 我 年 愝 閱。江。 閒 往 其昌君 端 縋 籴 後機同而為 而。頹。今。 **組盤桓郭焚家毀奔走摧殘髮咽高談脫冠痛氛埃之未掃撫風治胡爲乎不負君官位而終** (魂、光、衣。光 顯難,里 相。兮。烏。夫依。进、鞾、君 惟 未。識 夷。君 憂傷之 鳴飛·草·奔 飛·至·奔 長·笑在 偃言 肝 哉念 偃 修促 君 佛·執·瞻 婚 雛

惟年 毛西垣文 鄉子 呼世皆並生物喜其同 · 上 中 地 名 中 地 名 中 月其 艱 慨 所大叫我和以譁當時意 山讀書 載花隔山走詩汗傑 馬畏間逾冠又二意氣稍弱 未起及子貢都我 壯 輓嗚呼尚 。走 館 助厥詞 同 自天 我兒就 場勉强 遼碣負海 胡 學 可 子愁無。 跼 朝暮得 中 復 縮調當 輟 在京東垂獨 閭 相結 我 · 氣莽無際 · 僕口呀拔 · 人 里五年來 年十二始學爲文人 高 謠·男。 故 俗交所隆我之與子 步天 態 客劍歌清 歸 衢並 示我以詩 俗。怪。更 足 我

與子而子之體氣服 嗚呼退菴而遂死耶吾親從兄弟六人得年稍多者 祭六弟 堅沒車影寇禍 求春官 官瀏陽二歲我羈投劾自免及子之歸髮白齒衰 世難思詠時 退菴文 借 上且樂其篟 康 彌天煙塵 須畱 胡子遽疾忽馬以亡昔子善病往 《語·吳子訣· 《與子訣· 阿。雖 爲 精殭一飯 子今已死當如我何不才嗜音殊調子過 旅 四揚報 語子勿悲子實明哲執手謂病亟吾猶謂然人中耳長相 食 著存平生詩篇稿失不完後 相 依 加余 學即墨 國不獲言還舊 數倍治事 來請送子 何嗚呼哀哉尙 知之贊其中 國

書時距死裁十六日而書至之日子已前死耶據營中隨 全愈而念余疾之未盡除語軍中事至詳盡楷字幾千餘 至八九十故老從戎役遠涉西睡而吾不爲子難余比年 書書又能如此是子之自信其彊以爲必不至於死也嗚 安與余書書以四月廿六夜四鼓作中言二月大病後已 多病屢劇欲死而尚幸有廖常之君山久住計以待子歸 日更得相從數年以與吾目而子乃遂死耶五月中接秦 病者云歿前 不自 、言彼時病實未愈也而猶治軍簿至四鼓始得暇作家 寐不作呵欠吾所見人彊力過人者莫如子以爲當 誤筆且云今秋得決歸余大喜計日以須孰知作此 滅矣體瘠矣腹瀉不止又不得臥休以養病子豈全 知者耶毋乃安心 日猶手治軍書亦微言將死終無他語 **观於王事姑以好言慰我耶據侍**

祭姊氏 將 以相從 **父壽皆止七十余 身死事** 國家之祿未蒙 以慰 **命耳子豈真以好言慰我者耶嗚呼子之生平身未食** 之負不能 革 復居詩文已畢刻諸所著書皆將以次刊行余亦 所未嘗有者 事已有條緒 或以家事及敦善事問皆 於 文 前 宜也嗚呼子之治君 地 無 下矣嗚 所恨 終已無出計今茲與左季高三年之約已 前 即不便死豈能過之君山無吾弟在 此其於爲人可不謂古人之所難而 故不能 耶嗚呼余今年巳六十有六念吾 朝 呼尚響 **殁前年已得有元** 廷之知 無歸來之望其遂死不及待 而出力旣多忍苦尤極 山以待老非虚言也慎於 不答則子之自知其死 孫世所稱五 終 世 孤 則

一。人。姊。時。遂 十六七年耳而寡居之日實過倍之後又喪吾長甥 亡長婦計其前後持幼男女撫孤孫而泣者幾何 幸而長 者所贏之歲月皆爲其 則其兄弟夫婦與其子姓之屬必多有短者出其閒 年命短 萬狀又難言也而敏樹 敏樹之年亦六十有四矣則奚以悲爲惟念人 者可為幸耶我姊氏之歸於劉 ·長不齊其不幸而短人莫不悲傷之幸! 女。益·喜·能·姊 慘·高·踴·記·存 短者哀傷之歲月也然 ·樹·殆·之·當 ·遂·不·矣·迎 平生兄弟未中歲而 已。可。顧。歸積。任。父。獨 也與妳大偕居 則短 匯 H ·爾·堂·小·兄

皆稱汝命好吾亦謂如是足也嗚呼孰知汝之遂以死 嗚呼汝今死耶聽兒又死耶何其慘也何彭氏逢禍之亟 所求需物粗亦得之未嘗以爲戚自歸彭氏夫壻相得 八年有 死之前 而汝命之當其尤也嗚呼痛哉然汝生二十七年自今未 祭彭女四姑文 信聞汝母痛哭幾絕吾譬之曰渠年近三十 咸宜之來甯時未嘗有絮訴憂抑之語歸彭氏盈 未死得送吾老姊之終為 耶嗚呼尙 雖別後 男子二女子子來時抱攜屬路故宗黨姊妹 日汝命殊亦不惡生非富貴而我家尚不貧乏 許日関 顧幸常侍側與其婦張俱有孝道張之上 凶疉觀然老姊不至生爲之痛豈亦 願事嗚呼豈不 也

幸有是也嗚 思一 命之當其尤也然使汝與聽兒前後易日 聽兒病又數日而死也嗚呼痛哉何彭氏逢禍之亟而汝 肝腸當以寸絕豈 魂不亡 **而念汝之慈而能教之者之無繼也孰知** 生皆幻化耳佛家之言聖人所不肯道 **痛為彭氏痛汝之窮苦幽結不在生前在死後也雖然** 小女病甚余知不救日是雖隨去亦少遺累耳至於聽 而速化亦未知自憂其死而死也聽兒六歲能讀書 向我嘻嘻說讀書誦風詩不休余痛其不 十七年以前 能 有知則汝見聽見之隨汝必大 呼孰 過矣若命長者此後多是愁 如未知自憂其死而 知聽見之又隨以亡也我往汝家哭汝 何曾有汝汝大年以前 果之日也 為己痛爲汝去 而 也惟人死而鬼 我歸數 理固有之 何曾 知毋死之哀 死則汝之死 有聽兒耶 日而 如

葆樸堂銘 悲者願爲 之我今雖未離幻中獨 **今張君葆樸之云其意可** 余爲之文辭余惟人 葆樸堂者郡 **恵他人爲之言者亦然凡** 生 悲吾亦不能復爲汝悲矣酒饌之奠汝 固 뻬 有汝 幻究其極天地皆幻金 耶 如 微 楹 汝手寫 四句偈 塵 學師 不丹耶以是爲葆樸之堂 如 幻而有聽兒止見其有莫知 來說諸 金剛經 所云如夢幻泡影露軍 、之名其居室輒自 沙銘吾張君名其家 世界非世界是名 以此自解其悲亦 以自營其身與 知也乃爲之 部以窖於汝 剛經言 如來 之堂云爾而 宜歆之 世界此言大 說諸微塵 之墓前汝其 所以爲名之 無推 以解汝魂之 、亦盡 其前 非

馬葆眞不二以差宦場競囂謂樸非宜琢 時藉日不富金錢睨之吁嗟張君守此勿移學官淡泊卽 章有儀孔嘉終 雕其天以倖於

唐子方夢硯齋銘

斯貽之子孫世載清規

未嘗 來告日唐公以才能受知 **歲丙午友人毛君西坦客於陝西按察使** 必磊落奇偉之行尤甚好文章前年其在)能詩者題辭其家夢硯之圖唐公雅善 一爲俗吏所爲其所交識皆天下賢 天子自縣令 士所愛而稱者 累擺至監司 京師徧屬京 余詩是以見客 陽唐公所書

今方在憂他日當許爲之其冬西垣歸詣 禮馬今又以吾言知子勤爲古文 日夢硯者何也日曩者唐公隨侍其 尊府公官廣東 1 1 余具道唐公之 欲藉文於子子

具軍最為雄健矣而**肇**慶 特領海之 稱 益 惠 順 也夫 彰陳公之烈葢三十年於茲矣 齋 忠愍公 州 我 開陳公縣起 市 日夢 而其時尊府公方自 順 兵即 中遇貨硯 然。大。佩。尊 然。是。格。府 邦彦之 硯之齋以與海內士 國家之 以死完節 者 旗 故物其銘識 初 鄉 閭 覝 明之故臣 捐 其刻雪 骨 凊 家室 肉 遠 相 堂 是 扶其殘 夫 一若此平 旅 豊, 稍後 按 命 題记贊詠 硯 蹈 也 非 基明 鋒 唐 孽 圖之而 崎 信 ρŢ

孔長 夢。硯。晝。公 跡之得異后於老藤下后高六寸廣三寸又半下旁稍 不敢解 謝麐 **屠伯太史游**山異石硯銘 授。后。天。其 唐·之,此。辭 敢解則謹述其所與毛君言者而爲其齋之銘以獻於問於、敬極礪天下學士誠有謂哉今年唐公布政湖北以書公於此尤能欽想其風烈發揮傳頌之無已所以扶立 太史游湖中登牖 者誰發揚忠賢百代扶世綱我銘際公氣大剛以取 不死天南鄉人門霜惟硯后之英夜入此靍燭跛。。。。。 覩 河车唐公布政湖北以書 神傳頌之無已所以扶立 雖未嘗不赫然與之俱而 黑鳥撲入巖坳命從 天南鄉。此齊燭戏 Ę 吾·尤·

天章 党 雷 口 君余 萬取之友人家硯體甚巨形 四十二 面 水 平甚 硯 物 耶 耶 其底 硯也昔在辛卯之歲與亡 麐 銘 無以對 作 吾 何。 伯請 稱 限·朝 兩 稍出 層 |分末銳 使 敢 余 麘 旁各少 模尺式 文記 伯 圓 獨 持 孔 以 爲 為后 余 且 是 與有色 池尤妙 與此大 因 錯出 尤 硯 第十 近 鉊 也大黑鳥豈翰林 天 類 飛翰宜 遺之 成 然似 異無他文 見 面絲黑點 訴姦擊。 狀近 圃讀書 可硯若為銅 7 比 荒唐難 流音子 卽瞾 飾 嶽 那 微 據 背黄 匣 信 盛 余 有

抱視爲庸 停雲館 后君余旣無能遭遇 發揚於 **現故**良 怪而啟之清水盈溢。 三字驗其刻未 痛·后 此·也 平嗚呼 人役故作爲是 H 雨 **后君母吾與** 廢無事 が晴 以 工盎認 銘將 此益 日光 · 照書室硯在葢下 工和錦治之摩土 水善工 為文符詔家物以炫售 君銘 世而文 ᆀ 其尤 、硯屬之頗貴之未 私。之。 字日頗有名恐 愈寶愛之以姓 而刻之其背 之摩去酱